

梅林土壤調査 関連資料

調査日 : 令和 2 年 1 月 14 日実施

調査担当 : 奈良県樹木医会 藤原直孝 中川育男 天野孝之

立 会 : 橿原考古学研究所

1. 試掘部の土壤について (橿原考古学研究所 立会調査記録から下図に転載)

地点 D : ダブルスコップにより 60 cm 掘削
この地点は、もともと谷地形が埋没した上に、公園造成土が盛土されている場所である。断面を観察すると、掘削した 60 cm ほぼ全体が暗褐色砂混粘質土層 (第 1 層) が堆積し、土層のなかにはビニールゴミなどが混入していた。

地点 C : 小型重機により深さ 100 cm 断面掘削
表土から 40 cm は尾根上位を削った土砂が再堆積した造成土 (第 1 層) で近世瓦片が含まれていた。その下 40 cm も地山層の再堆積層と思われる黄褐色砂礫混土 (第 2 層) で、その下に大阪層群と思われる基盤層 (第 3 層) が確認できた。

地点 E : ダブルスコップにより 60 cm 掘削
土層は、表面 10 cm は腐植土 (第 1 層)、その下は地山層と思われる堅く締まった暗褐色粘質土 (第 2 層) が掘削底部まで及んでいた。この付近は、春日大社側から西に延びる尾根の尾根筋にあたるため、地山層が浅く確認できたと考えられる。

地点 A : 小型重機により深さ 100 cm 断面掘削
表土から 25 cm が近代の公園造成土 (第 1 層)、その下 20 cm が水性堆積と思われる灰黄褐色粘質土 (第 2 層)、さらにそこから下 55 cm は黄褐色粘質土の地山層 (第 3 層) を確認した。

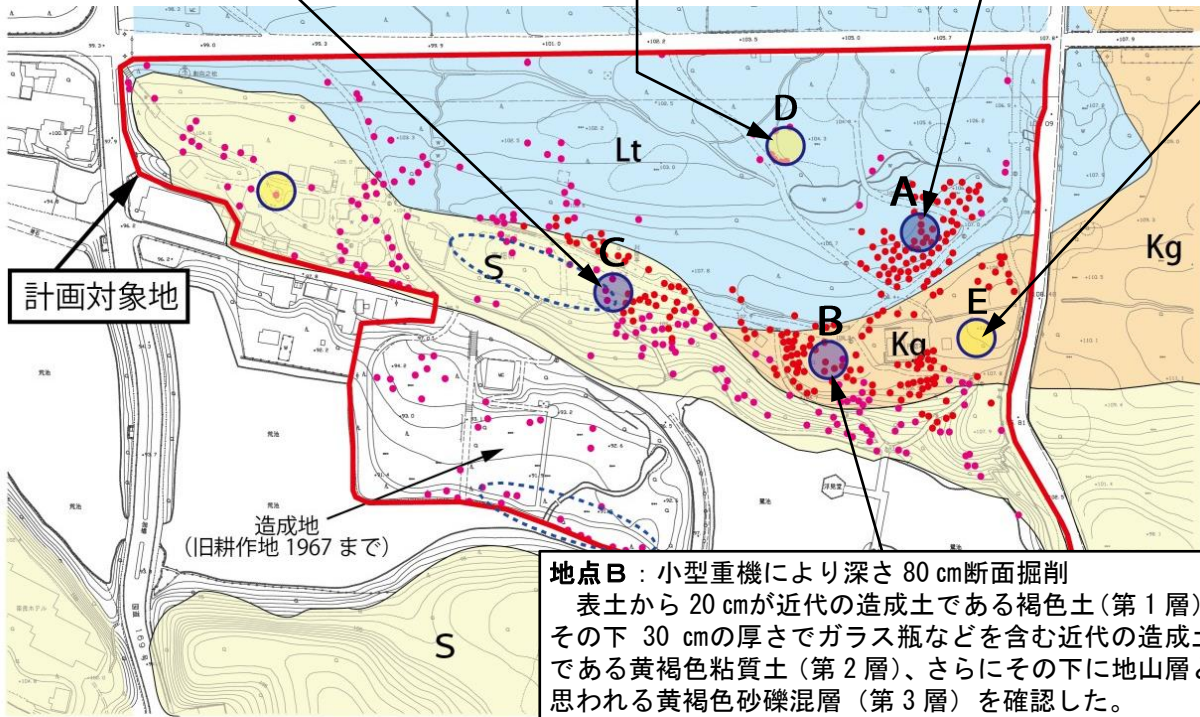


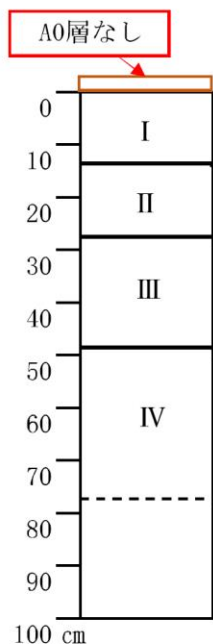
図: 試掘部の土壤に関する記録

2. 土壌断面について（奈良県樹木医会 土壌調査報告書から抜粋）

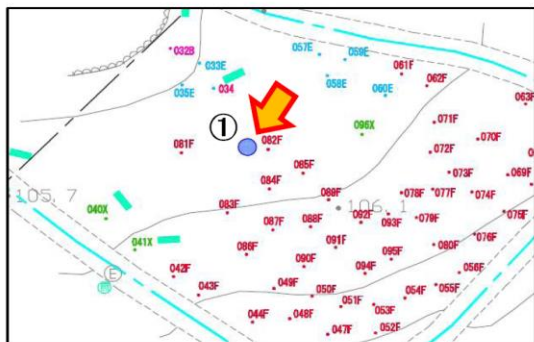
地点A

土 壌 断 面 調 査		調 査 名		浅茅ヶ原及び荒池園地土壌調査				
調査断面	A	調査日	2020/1/14	樹種	ウメ	曇り	調査者	奈良樹木医会

層位区分	土色	腐植	土壌構造	硬度 mm	土性	水湿	石礫	備考
I	10YR7/4	乏し	弱度	19	SL	潤	細礫	堅密度区分： 堅い
II	10YR9/8	乏し	弱度	19	L	湿	細礫	堅い
III	10YR9/6	なし	なし	17	C	湿	なし	やや堅い
IV	10YR9/8	なし	なし	19	C	湿	なし	堅い



区 分	細根	小径根	中径根	大径根	特大根
直径(mm)	0.2未満	0.2～0.5	0.5～2.0	2.0～5.0	5.0以上
記号	—	●	▲	■	◆

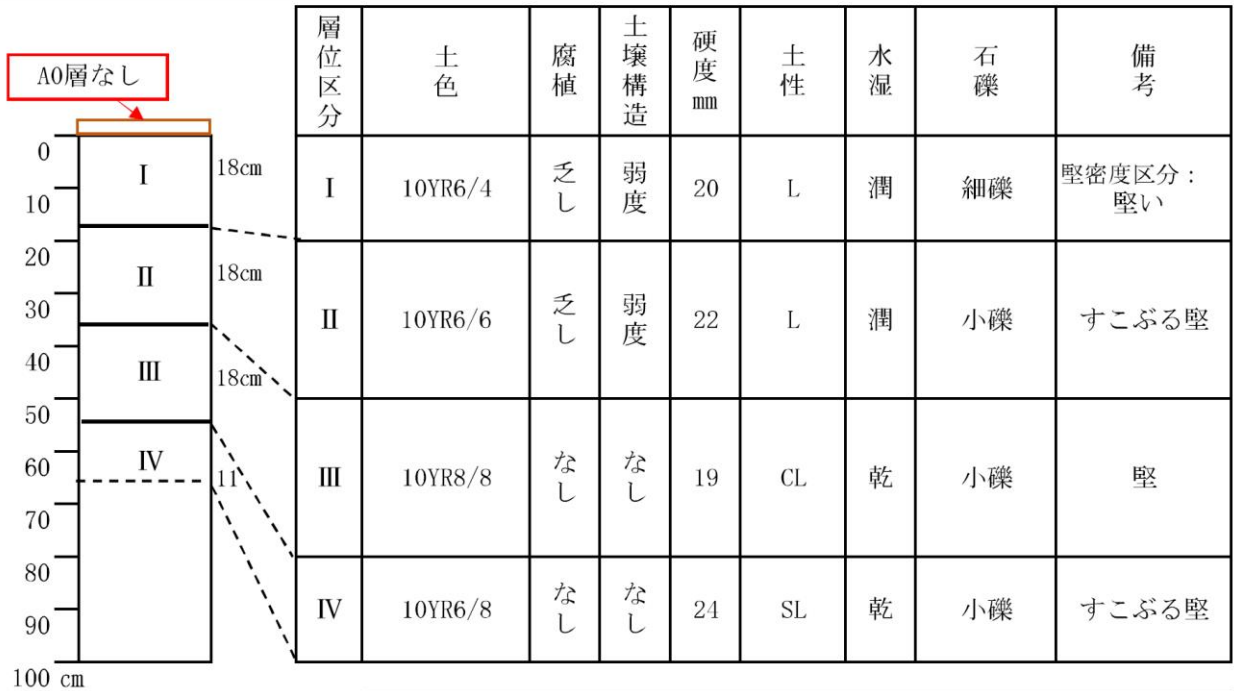


		(cm)		50		100	
0	—	●	—				
10	■	●	—				
20							
30							
40							
50							
60							
70							
80							
90							

樹種	樹高(m)	幹周(cm)
ウメ	3.0	35

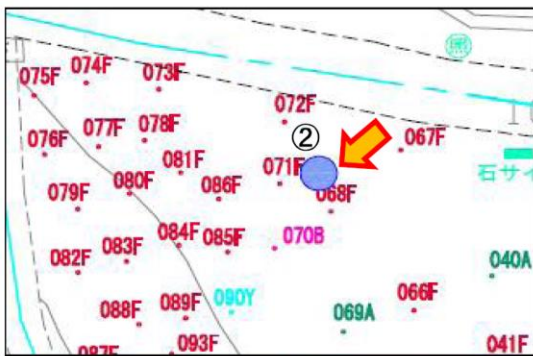
地点B

土 壤 断 面 調 査		調 査 名	浅茅ヶ原及び荒池園地土壌調査					
調査断面	B	調査日	2020/1/14	樹種	ウメ	曇り	調査者	奈良樹木医会



区 分	細根	小径根	中径根	大径根	特大根
直径(mm)	0.2未満	0.2～0.5	0.5～2.0	2.0～5.0	5.0以上
記 号	—	●	▲	■	◆

(cm) 50 100

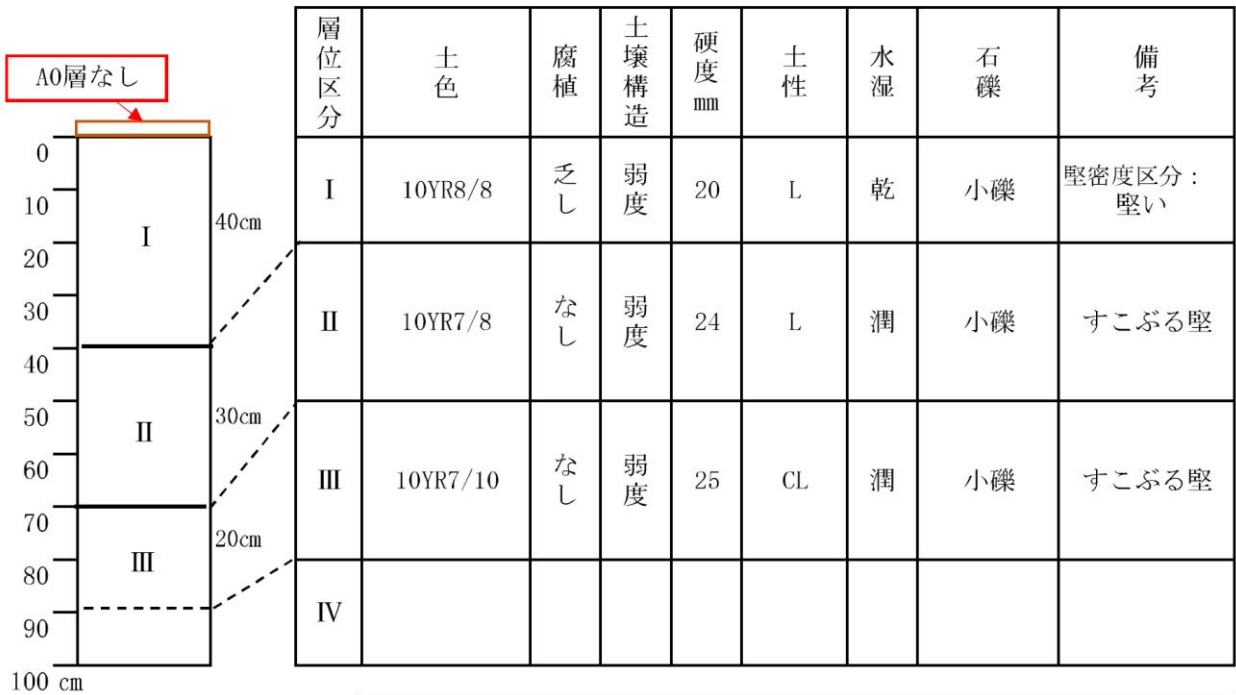


0		—		▲	—	●	—	
10			●	—				
20							▲	▲
30								
40			▲					
50			▲	●				
60								
70								
80								
90								

樹種	樹高(m)	幹周(cm)
ウメ	3.0	39

地点C

土 壤 断 面 調 査		調 査 名	浅茅ヶ原及び荒池園地土壌調査					
調査断面	C	調査日	2020/1/14	樹種	ウメ	曇り	調査者	奈良樹木医会



区 分	細根	小径根	中径根	大径根	特大根
直径(mm)	0.2未満	0.2～0.5	0.5～2.0	2.0～5.0	5.0以上
記号	—	●	▲	■	◆

